

昭和の歌謡曲を皆で熱唱

おむすびハウスではいろいろな活動を行っています
今回のおむすびハウス通信は**音楽特集**です



ピアノは
徳田玲子さん



解説とギターは
大久保隆さん

6月28日の「歌声サロン」は猛暑にもかかわらず、おむすびハウスにたくさんのシニアの人たちが詰めかけました。エアコンはフル稼働でしたが、あまりの暑さにうちわや扇子をあおいでいる人たちも数多く見かけられました。

毎月第4土曜日に定期的に行っている「歌声サロン」は、口コミで誘い合ったりして評判がよく、部屋に入りきれないくらいになっているのが運営側の嬉しい悲鳴です（歌声にかき消されて嬉しい悲鳴は聞こえないと思いますが）。

まず、川柳界の大御所、田崎信さんの虫食い川柳（クイズ）

出題で会場の緊張がほぐれました。その後の演奏は、いつものようにピアノ伴奏は徳田玲子さん、ギターは大久保隆さんです。曲の前には大久保さんがスライドを使用して、当時の時代背景や作曲家・作詞家についての豆知識を披露してくれて、参加者の皆さんも思わず笑ったり、頷いたりしてしていました。

戦前の「雨降りお月さん」から始まって、戦後まもなくの流行歌、さらには明るい昭和を象徴する加山雄三の「お嫁においで」などなじみのある曲を皆で歌いました。熱気のなか、良き昭和の時代を偲ぶことができました。

さわやかな リリックアンサンブル

毎年の恒例行事となった演奏会です。じっとりとした雨の6月3日でしたが、ヴァイオリン（白石玲子さん）、ピアノ（田中伯子さん）そしてフルート（泉野有香さん）のアンサンブルによって、おむすびハウスは快適な空間となりました。

定番のエルガー「愛の挨拶」はいつ聞いても心がホッとします。モーツァルトの「メヌエット」やバート・バカラックの「雨に濡れても」もありました。珍しいものは昔の映画曲の「子象の行進」（ヘンリー・マシーニ）など多彩な内容で、最後は皆で声を合わせて「夏の思い出」やら「上を向いて歩こう」「川の流れるように」などを合唱しました。

アンコールで演奏をしてもらった「愛の挨拶」をQRコードから視聴できます。

「愛の挨拶」の動画
のQRコードです



おむすびハウスは 音楽ホール

街で活躍するアマチュアバンド



ボーカルを中心にした昭和食堂の皆さん



7月12日はアマチュアバンドグループ「昭和食堂」と「イオエコル」の皆さんによるサタデー音楽会でした。

前半の部：6人のメンバーによる「昭和食堂」は、お子さんたちが絵の教室に通っていたときの先生を中心に結成されたバンドです。ギターやベースの楽器のほかにもカホンという木製の打楽器でリズムを刻んでいました。なじみのある「ひょっこりひょうたん島」や「竹田の子守歌」の演奏で和気あいあいという雰囲気になりました。



イオエコルの皆さんによる
南国ハワイアン演奏
写真は「月」のハンドサインです

後半の部：「イオエコル」（ハワイ語でイオは鷹、エコルは三を意味する）は同じウクレレ教室に通っている人たちによって結成されたグループです。ハワイアン演奏のほかにも手のジェスチャーによる「花」「波」「雨」「月」を教えてもらいました。写真は両手で丸く輪をつくる「月」のハンドサインです。「浜辺の歌」や「バラが咲いた」などを皆で声を合わせて歌いました。